TSUSHIMA + SHIKATA

市民にも親しまれる知的かつ魅力的な大学へ

特集 Special Section

「美しい学都」を目指して進むキャンパス整備

森田潔学長が学長就任時に打ち出した、岡山大学の進むべき方向を示した「森田ビジョン」。その一つとして掲げる、大学と都市・地域が連繋した新たな「美しい学都」の形成に向けたキャンパス整備が進んでいる。大学の顔となり、地域のシンボルとなる新たな施設として今秋には鹿田地区にホール（通称：Jホール）、来春には津島地区にカフェテラス（通称：Jテラス）が完成する予定。岡山大学が目に見えて変わる瞬間（とき）が近づいている。

S H I K A T A

●学長に聞く

美しく気品ある キャンパスづくり

学長特別補佐である建築家ユニット「SANAA（サナア）」の妹島和世氏、西沢立衛氏から提言を受けたキャンパス計画がいよいよ実現に向けて本格的に動きだした。今年に入り鹿田地区のホール建設が始まったが、今後どのような流れで施設整備が進み、今ある景観がどう変わるのか。森田潔学長に目指すキャンパス像や将来構想も含めて聞いた。

—森田ビジョンの一つの大きな柱である「キャンパスの創造」。すでに鹿田地区のホール建設が始まり、変化のスピードの速さを感じる。そもそも学長が目指すキャンパスのあり方とは。

私の理想形はオープンなキャンパスにある。その考え方はサナアの2人と共通している。これまでのキャンパスは自分のテリトリーを閉めようとしていたが、それは間違い。大学も病院も特別な場所ではなく、可能な限りオープンにしたい。変化を起こすには発想の転換が必要だ。例えば、広がりのある開放的な空間づくりのために垣根を取ろうと思っても、人が入りやすくなり、治安が悪化するのではないかといった意見がある。それは逆で、垣根で中を見えなくするほど治安は悪化し、むしろ見える方が犯罪は減ると考える。また、キャンパス整備にお金をかけるよりももっと研究費に充ててほしいといった声も聞かれる。大学の本質は教育と研究であり、もちろん研究費も大切だが、キャンパス整備にも投資しなければ大学の将来はない。ゆとりと潤いのある、美しく魅力的なキャンパス環境をつくらなければ、いい研究者もいい学生も集まらないと思う。変化が速いと言うが、私の描いたタイムスケジュールではすでに鹿田地区のホールが目に見える形になっているはずで、半年から1年近く遅いペース。変化を起こすのは想像以上に難しいが、目に見える形になることでみんなのイメージがどんどん膨らみ、納得して変化への抵抗感がなくなっていくことだろう。

—福武教育文化振興財団副理事長の福武純子氏からの寄付があり、鹿田地区にホール、津島地区にカフェテラスをつくる「Jプロジェクト」が本格始動した。寄付を受けることになった経緯とは。

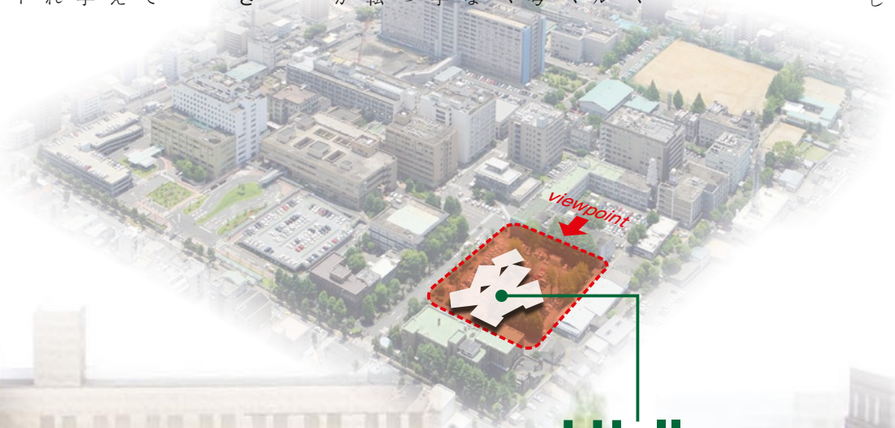
2010年2月に直島であったARTプログラムセミナーの食事会で現在の許南浩副学長と福武氏が話す機会があり、その後、学長に就任することになって私も加わり、鹿田地区にホール、津島地区にカフェテラスをつくろうという話がまとまった。福武氏からは10億円の寄付があり、ホール建設に8億円、カフェテラス建設に2億円を充てる。キャンパスの新たなシンボルになり、私が目指す「美しい学都」を進めるための〝仕掛け〟になればと期待している。

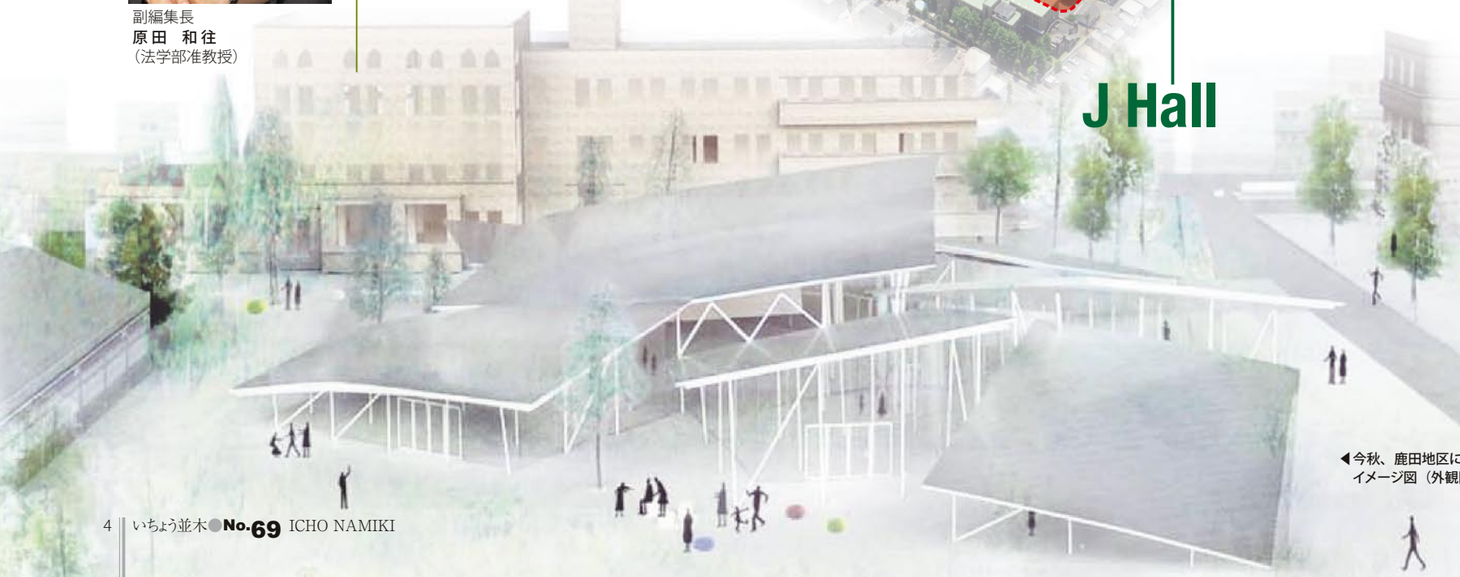
—ホールはどのような建物になるのか。どう活用していくのか。

高さの異なる7枚の屋根スラブによって構成し、メーンのレクチャーホールを含め3つのホール（計450席）、コモンズスペース、屋根下広場などを設けるが、空間を明確に区切らず、開放的な建物にする。オープニングセレモニーは11月10日開催予定。医学部には学会やセミナーなどを開くのにふさわしい場所がないため、当初は医療系のためのホールをつくるつもりだったが、福武氏と話すうち、そういったホールではなく、市民が気軽に行けるような、いわば〝ミニ市民会館〟にしたいと考えるように。市民が医学とは関係なく、文化のために入って来られる場所になればいいなと思っている。隣接する医学資料室・研究棟が医学部の雰囲気を保っており、一方、解剖実習棟は新棟移転に伴い2年後になくなるため、空間がより広く感じられるはず。

—ホール完成により、鹿田地区が大きく変わる。

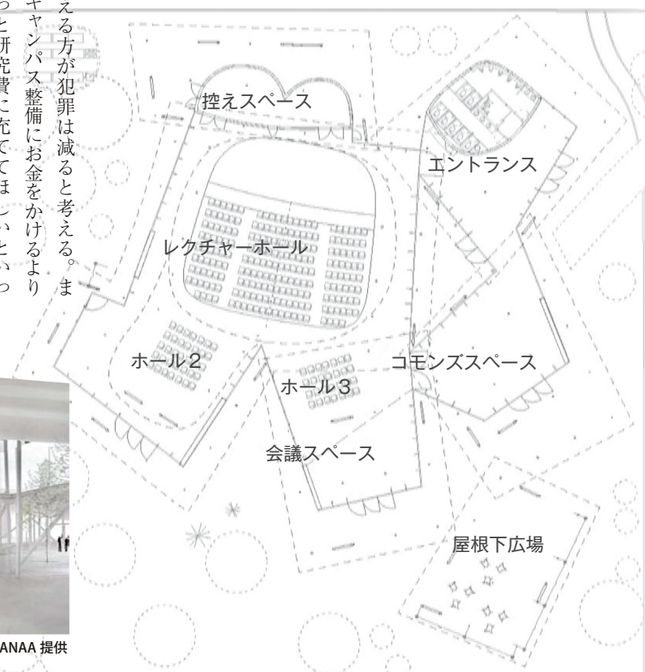
これで終わりではない。ホールができるのと同時に医学部正門をぜひ変えたいと思っている。今は「ここは医学部ですよ」と主張するような閉ざされたイメージが強く、地域に開かれたホールと相反する。病院と医学部の入口の一体感を図りながら市民が気軽に立ち寄れる雰囲気にしたい。





◀今秋、鹿田地区に完成するホール（通称：Jホール）のイメージ図（外観図）：SANAA提供

▲（内観図）：SANAA提供

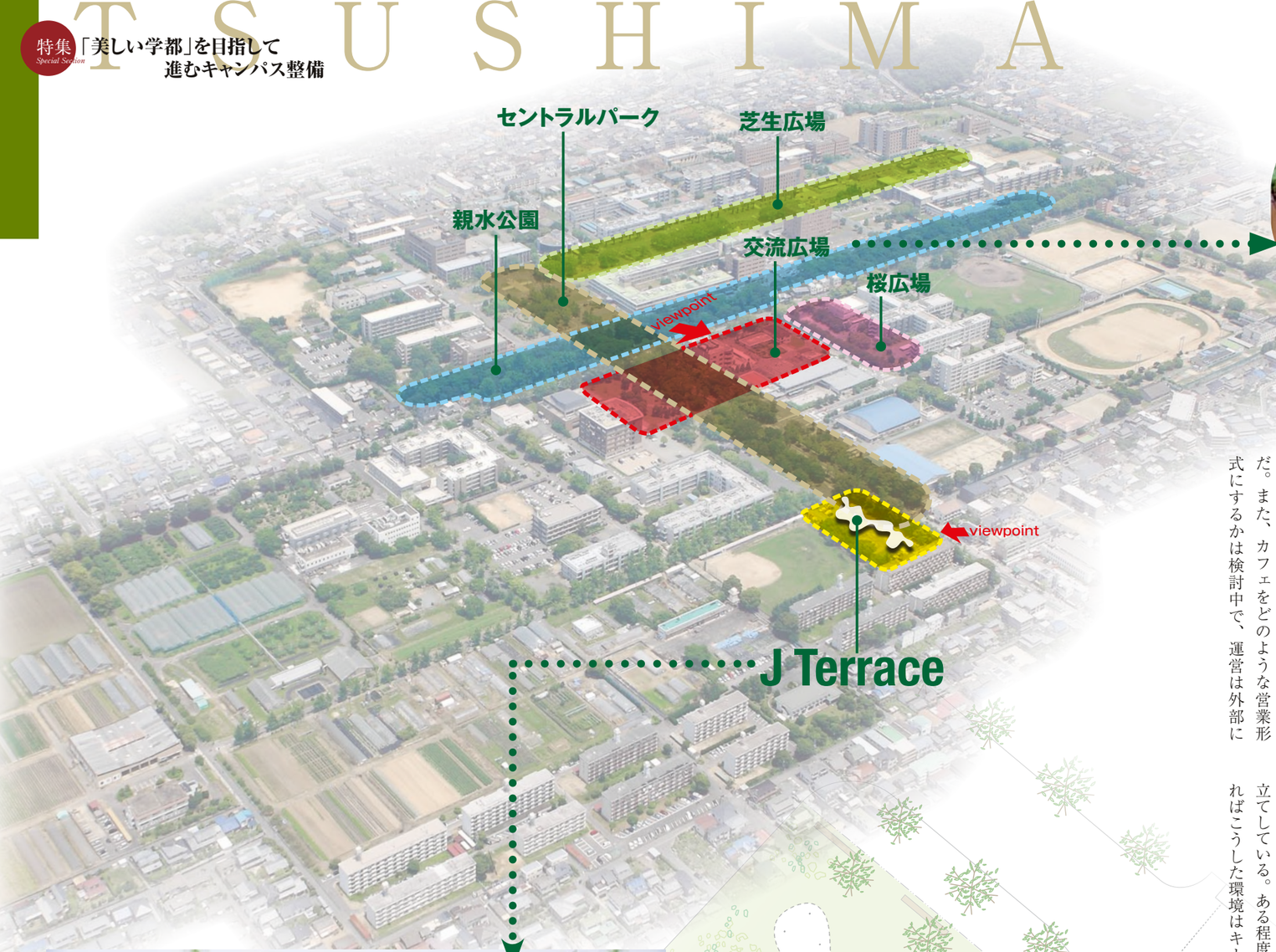


● Interviewer

いちょう並木編集長
後藤　邦彰
（工学部教授）

副編集長
原田　和往
（法学部准教授）

TSUSHIMA



◀大学会館周辺交流広場イメージ図（構想段階）

▲来春、津島地区に完成するカフェテラス（通称：Jテラス）の模型

―なぜ、津島地区にカフェテラスを。

学長として津島地区に来てみて、キャンパスに学生の姿が少ないと感じた。きっとキャンパスが快適でないからであり、ゆっくりとお茶を飲んで休憩できる場所がないからだ。だからこそカフェテラスが必要だと思った。市民も利用できるように、南北道路からも見えやすい正門西側の農学部テニスコート及び駐車場跡地につくる。9月上旬に着工し、完成は来年3月末になる予定。

―カフェテラスはどのような建物になるのか。カフェはどのようなスタイルで、どこが運営することになるのか。

不定形の雲のような大屋根（620平方メートル）を建設し、下側にカフェ（平屋125平方メートル、50席）を設けるほか、多目的スペースを整備。カフェの壁面は透明にし、周囲は芝生広場にする。エントラスをどうするかも考えどころ。少なくとも風景をふさいでいる垣根は取り除き、入りやすい雰囲気にしたい。多目的スペースの活用法は学生らと意見交換しながら決めることにしており、5月末に福武氏、サナアの西沢氏を交えて話をしたところだ。また、カフェをどのような営業形式にするかは検討中で、運営は外部に委託したいと思っているが、大学は長期休暇もあり、経営的観点から業者参入がなかなか難しい。

―津島地区における今後の整備計画について教えてほしい。

大学会館周辺は緑化を進め、学生たちが集い、休憩できるような交流広場にする。植樹やレンガ舗装などをし、完璧なものではないが10月末の完成を目指す。その東側は既存の桜を移植かつ新植し、合格発表や入学式の時期に絵になる桜広場として整備する。また、東西道路や南北道路によって三つに分離しているイメージが強いキャンパスの一体化を図るセントラルパーク計画も進めたいところ。道路両側にある垣根を撤去して外部歩道とキャンパス内の境界をなくし、歩道を広くする。そして、親水公園とのつながりを持たせ、見通しの良い空間をつくる。キャンパスの雰囲気はがらりと変わるだろう。

―キャンパス整備の予算はどうなっているのか。

私が学長になってから森田ビジョンの環境整備のために毎年2億円を予算立てしている。ある程度お金をかけなければこうした環境はキープできないし、キャンパス整備を加速させるにもやはりお金は必要だ。グリーンを維持するためのお金を捻出したいと思っている。

―学内には意外と知られていない魅力的な場所が多い。市民に開かれた大学へ、もっと見せる工夫が必要だ。

ほかの大学から岡山大学に来た人は今の状態でさえ「岡山大学は広くていい」と感心してくれる。新幹線駅から近く、都市部の真ん中にこれだけ広大なキャンパスを持つ大学はほかにはなく、生かさない手はない。学生の課外活動スペースも美しく整備し、農学部の農場も隔離するのではなく、市民が楽しめるようにしっかりと活用したい。町内会とも連携し、国道53号からの大学筋にもっと大学の雰囲気を持たせたいとも思っている。見せる工夫はもちろん、美しく気品あるキャンパスづくりを進めるうえでの仕掛けも大切だ。